

<産地レポート>

ウッドエースで、豊かな山林管理を

ジェイカムアグリ(株) グリーンビジネス部

我が国の国土面積の3分の2が森林です。森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止、木材の生産などの様々な働きがあり、適切な整備・保全による維持管理が重要になります。

日本の林業は農業と違って、1960年代から輸入関税が撤廃された分野です。半世紀以上も輸入品とのコスト競争を続けている厳しい状況です。

今回、鹿児島県森林組合連合会が行っている植林作業を見学する機会があり、その取組をご紹介します。

■植林作業

鹿児島県指宿の山林に囲まれた広大な傾斜地に、主伐(伐採して木材として利用)した後の植栽地約15haのうち約2.6haにスギ苗木7,500本を植えていた。切株の間に縦5尺(約1.5m)、横6尺(約1.8m)の間隔で、数十人の作業員が手作業にて、植栽木を一本ずつ植付けていた。肥料としてウッドエース1号を3個ずつ根周りに施していました。また、周囲には木材搬出用重機フォワーダや、高く整然と積み上げた丸太など、新しい機材活用による木材搬出作業が行われていました。



<植林地>



<植栽作業状況>



<フォワーダ(林業機械)>

■鹿児島県森林組合連合会の取組

今回お伺いした鹿児島県森林組合連合会は、鹿児島県内15森林組合(組合員数約10万人、組合所有面積約9万ha)からなる組織です。国内林業の木材価格の長期低迷、後継者不足、放置森林の増加など難しい課題があるなか、経営指導、物資供給など所属会員に対して、様々な支援活動を行っています。

また木材利用の拡大を目的に、特性を生かした建築用型枠合板 CLT(直交集成板)の開発普及や、新たな需要創出として再生可能エネルギー 木質バイオマス^{*1}に取り組んでいます。収集や運搬にコストがかかることから、その多くが搬出されることなく、森林内に放置されていた未利用間伐材の利用が注目されています。

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度^{*2}」の活用により、未利用間伐材は一般木材(製材等残材等)より利用価値が上がるため、森林組合では県内2箇所の間伐材等の木質バイオマス利活用施設を作り、積極的に活動を推進しています。

＜産地レポート＞

■施肥について

造林（建材用）などの新植には、生育期間が長期に渡ることから、施肥を行わないケースが多くなっています。

今回、この地区では施肥作業を行いました。その背景には2年前植林した無施肥の植栽木と比べ、1年前植林したウッドエース1号を施肥した植栽木の背丈が、倍程高かったことを考慮に入れたとのことです。

今後も施肥作業を取組んでいくとのことです。

実際その山林地を見せてもらい、肥料が植栽木生育を促す効果を確認できました。

ウッドエースは窒素成分のすべてが緩効性肥料IBDUからできており、2～3年の肥効持続から肥料成分流亡の多い傾斜地の緑地維持や、根系の発達促進から、表土の崩壊や移動防止への効果が期待できます。

また豆炭状の形状から施肥作業が簡単です。



＜植林2年前・無施肥＞



＜植林1年前・ウッドエース施肥＞

■最後に

従来、材木の高品質生産を目的の一つとしていた林業市場において、活動スタイルの異なった木質バイオマスのエネルギー利用は、新たな山林管理作業の需要が見込まれ、健全な植栽木生育に肥料の働きが期待されます。

最後になりますが、今回の見学にご協力して頂いた鹿児島県森林組合連合会 迫間部長様、迫課長様、小園様、かごしま森林組合いぶすき支所 中村様、に感謝の意を表します。

※1 木質バイオマス

「バイオマス」とは、生物資源（bio）の量（mass）を表す言葉であり、石油等のように使えば枯渇する燃料ではなく、生物由来のエネルギーを使うことにより自然界のサイクルに乗っかる形で、枯渇することの無い燃料のことです。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼びます。

木質バイオマスには、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類があります。（林野庁ホームページ 参照）

※2 再生可能エネルギーの固定価格買取制度

再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で買い取ることを国が約束する制度です。

（再生可能エネルギー 固定価格買取制度ガイドブック2015年度版 経済産業省資源エネルギー庁より）